

松浦武四郎生誕190年等記念事業報告書

松浦武四郎

～時をこえてつなげる心～

— 生誕200年に向けた種まき —

Matsuura Takeshiro

The 190th Anniversary of His Birth

The 120th Anniversary of His Death

The 150th Anniversary of His 6th Exploration in Hokkaido



松浦武四郎生誕190年等記念事業実行委員会
実行委員長 三好 孝

松浦武四郎は、平成20年(2008)に、生まれてから190年、亡くなってから120年、6回目の北海道の調査をおこなってから150年という記念すべき年を迎えました。

松浦武四郎のことを広く知っていただくため、1年をかけてさまざまなことに取り組んでまいりましたが、無事に記念事業を終えることができましたことを、何よりも嬉しく思っております。

記念事業にご支援とご協力をいただきましたみなさまには、心から感謝を申し上げます。

本当にありがとうございました。

武四郎を知らない人びとにとっても、これほどまでに武四郎に注目をしていただいた年はなかったのではないのでしょうか。

それとともに、この1年の間に、国会ではアイヌ民族を先住民族として認めることを政府に求める決議があったことや、1503点にのぼる松浦武四郎関係資料が重要文化財に指定されたこと、北海道開拓記念館などと連携した武四郎の調査研究が進められていることなど、記念すべき年に大きな出来事が重なったことも大変効果的であったと思います。

私自身、この記念事業をとおして武四郎の生き様に教えられるところがたくさんありましたが、みなさんの中にも武四郎の功績や生き方に心を打たれ、武四郎のファンになられた方も多かったのではないのでしょうか。

一つの目標を立て、それを実現していくために生涯をかけた姿は、ある意味では人間の美学ともいえる、模範的な生き方ではなかったかと思います。

人間は生きていく上で、いろいろな人の助けを必要とします。武四郎の大きな功績である6度にわたる北海道の調査も、一人では決して成し遂げられるものではありませんでした。たくさんのアイヌの人びとの支えがあったからこそ、武四郎は詳細な記録と地図を作ることが出来たといえます。

私が、北海道を訪問し、気づかされたことは、アイヌの人びとや、北海道の人びとにとって、武四郎が今もなお、大切な存在であることでした。これは三重県や松阪市にとって、目に見えるものではありませんが、とても大きな財産ではないのでしょうか。

この生誕190年に行った取り組みを、今後どのように発展させていくか、次の世代が生誕200年をどのように取り組んでいくかを、ぜひ見極めたいと思っております。

10年先の生誕200年に向けた取り組みへも、引き続きみなさまのご支援とご協力を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

記念事業が目指したもの

松浦武四郎を活かす

- ① 市民に誇りや愛着を感じてもらい、個性豊かな地域づくりに役立てる
- ② 生涯学習や、小中高生の学習などで武四郎の生き方や心を学ぶ
- ③ 武四郎にちなんだ新しい文化の創造と、心豊かな人づくりに役立てる
- ④ 武四郎を通して、松阪の豊かな文化を全国へと発信する



武四郎まつりマスコット
キャラクター たけちゃん

松浦武四郎生誕190年等記念事業の歩み

伊勢国一志郡須川村(現在の三重県松阪市小野江町)で生まれ、幕末から明治維新にかけて活躍した松浦武四郎(1818～1888年)は、旅行家・探検家、作家、出版者、学者など、数多くの顔を持ち、アイヌ民族と交流を深めたヒューマニストとしても、近年その評価が高まりつつあります。

松阪市では、平成20年(2008)2月に、松浦武四郎が生誕190年、没後120年、6回目の北海道調査から150年という記念すべき年を迎えたことから、平成21年(2009)2月までの間に、1年をかけて記念事業を行ってきました。

記念事業は、松浦武四郎生誕190年等記念事業実行委員会(事務局＝松浦武四郎記念館)が中心となり、まだ武四郎のことを知らない方々に、武四郎の魅力を紹介していくことから始めました。

そして、松浦武四郎の功績や人間性を知っていただくことで、「武四郎を活かした個性豊かな地域づくり」、「武四郎に学んだ心豊かな人づくり」、「武四郎にちなんだ新しい文化の創造」へと、今後も引き続き発展させていくための「下地づくり」と、10年先に迎える生誕200年に大きな花を咲かせることができるよう、「種をまく」ことに取り組みました。

松浦武四郎のメモリアルイヤー

- 1818年 松阪市小野江町で生まれる
- 1858年 6回目の北海道調査を行う
- 1888年 71歳で亡くなる
- 2008年 生誕190年、没後120年、6回目の北海道調査から150年を迎える
- 2018年 生誕200年、没後130年などを迎える



2月	23日(土)	オープニングイベント	1200名参加
	24日(日)	関連イベント 第13回武四郎まつり	2700名参加
3月	23日(日)	シンポジウム「松浦武四郎とアイヌ民族」	200名参加
4月	13日(日)	連続講座 第1回「松浦武四郎とその資料」	70名参加
5月	11日(日)	連続講座 第2回「蝦夷地に渡るまで 後編」	67名参加
6月	8日(日)	連続講座 第3回「蝦夷地に渡るまで 後編」	47名参加
7月	13日(日)	連続講座 第4回「蝦夷地を探る」	61名参加
8月	10日(日)	連続講座 第5回「アイヌ民族の理解者として」	60名参加
9月	14日(日)	連続講座 第6回「幕末の志士とともに」	65名参加
10月	15日～18日	武四郎の足跡を訪ねてin北海道	35名参加
	29日(水)	武四郎の足跡を訪ねてin大台ヶ原	39名参加
11月	1日～30日	三重県立博物館 移動展示「いにしへの風景～三重の旅といとなみ～」 伊勢新聞創刊130年記念パネル展	延べ 1244人来場
	4日(月)	記念事業ホームページ開設	
	9日(日)	伊勢街道ウォーク	518名参加
12月	14日(日)	連続講座 第7回「維新に生きる」	45名参加
1月	11日(日)	連続講座 第8回「趣味に生きる」	37名参加
2月	4日(水)	松浦武四郎にちなんだ看板をリニューアル	
	8日(日)	連続講座 第9回「老いてなお衰えず」	77名参加
	11日(水)	研究成果速報会「武四郎研究の最前線」	160名参加
	22日(日)	関連イベント 第14回 武四郎まつり	4000人参加

オープニングイベント

平成20年2月23日(土) 松阪市民文化会館 来場者1200人

平成17年1月に市町合併により新しく生まれた「松阪市」において、松浦武四郎のことを詳しく知らない方もたくさんおられることから、まずは広く知っていただくことを目的に、「武四郎を知る!」、「武四郎を語る!」、「武四郎を偲ぶ!」、という3つのテーマを設け、武四郎の魅力をわかりやすく紹介することに努めました。

武四郎を知る!



松阪しよんがい音頭と踊り「松浦武四郎一代記」 (松阪しよんがい音頭と踊り保存会)

松阪の郷土芸能である「松阪しよんがい音頭と踊り」には、15番に及ぶ唄と踊りによって武四郎の生涯を紹介する「松浦武四郎一代記」があります。

ぐんどう

群読「松浦武四郎」

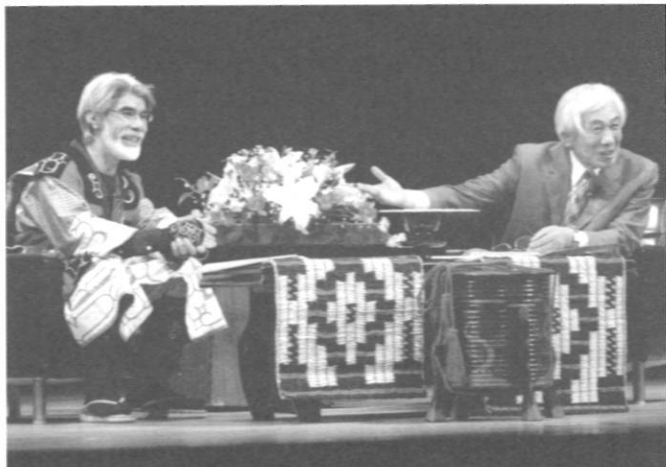
(松阪市立小野江小学校6年生)

松浦武四郎記念館の隣にある小野江小学校では、さまざまな価値観を受け入れる広い心、偏見を持たない眼、常に先を切り拓く力を、武四郎の生き方から学び、地域の先輩である武四郎に一步でも近づけるよう取り組まれています。

6年生のみなさんには、「群読」を通して武四郎のことを紹介していただきました。



武四郎を語る!



いそりひろみ

磯里博巳さんが語る武四郎への思い

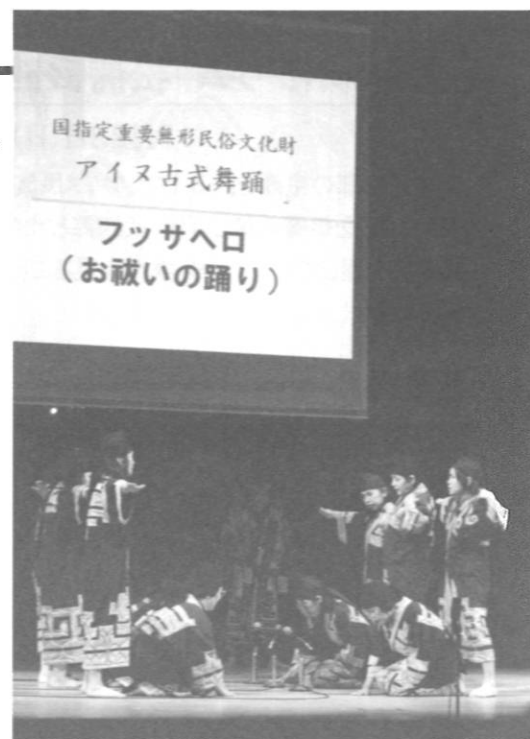
武四郎が150年前におこなった6回目の北海道調査で、屈斜路湖を案内したのはアイヌ民族の男性イソリツカラさんでした。

そこで、イソリツカラさんのご子孫にあたる磯里博巳さんを北海道弟子屈町からお招きし、松浦武四郎記念館の高瀬英雄館長と対談しながら、武四郎への思いを語っていただきました。

武四郎を偲ぶ!

国指定重要無形民俗文化財「アイヌ古式舞踊」

北海道むかわ町から鶴川アイヌ文化伝承保存会のみなさんをお招きして、武四郎が150年前に見たであろうアイヌ民族に伝わる伝統的な踊りを披露していただきました。



▲司会を務める高松智子さんにもアイヌ民族の衣装を着ていただきました。



◀ イベントは松阪市の市制施行3周年記念式典に引き続いて行い、記念式典では、松浦武四郎直系のご子孫である松浦一雄さんが市政特別協力者として表彰されたほか、市民憲章や市の花「ヤマユリ」、市の木「マツ」、市の鳥「ウグイス」が紹介され、新しくできた市民歌も披露されました。



▲アイヌ民族の衣装に身を包んで
主催者あいさつを行う三好実行委員長



▲会場入口でお越しいただいた方々をお出迎える記念事業実行委員と松浦武四郎記念館友の会のみなさん



◀ これからの記念事業を紹介する
副実行委員長の山本坦さんと中村文恵さん

武四郎まつりのマスコットキャラクター
「たけちゃん」が、まつりのPRに登場



▲翌日の2月24日には、松浦武四郎記念館を会場に「第12回 武四郎まつり」(武四郎まつり実行委員会主催)が開催され、多くの人びとでにぎわいました

記念シンポジウム「松浦武四郎とアイヌ民族」

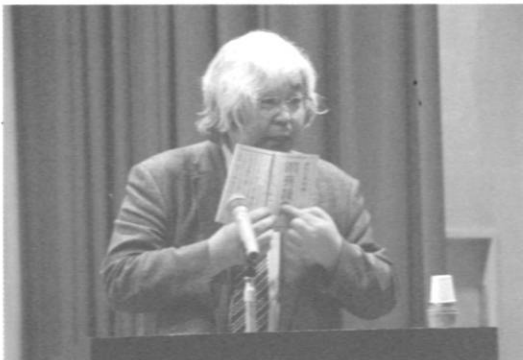
3月23日(日) 松阪市産業振興センター 来場者200人

松浦武四郎の生涯を語る上で、アイヌ民族との交流は大きなテーマです。

そこで、記念事業の第2弾は、武四郎とアイヌ民族の交流を考えることをテーマとしたシンポジウムを開催しました。

武四郎を通してアイヌ民族・文化を見ることに加えて、アイヌの人びとから見て松浦武四郎とはどんな存在であるかを、みなさんとともに考えました。

記念講演



「松浦武四郎の蝦夷漫画」

講師 佐々木 利和 先生(国立民族学博物館 教授)

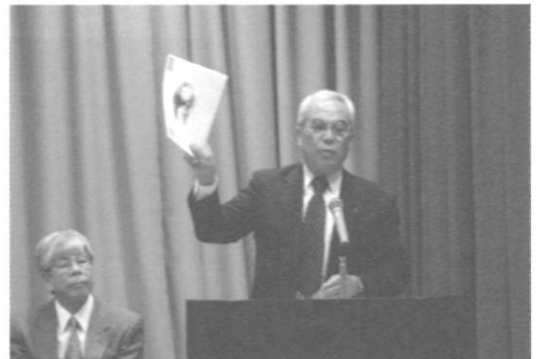
松浦武四郎は、安政6年(1859)にアイヌ文化を広く紹介するため、「蝦夷漫画」という本を出版しました。佐々木先生には、武四郎が描いたアイヌの人びとの姿や、この本を出版した意義について、わかりやすくお話いただきました。

パネルトーク

「松浦武四郎とアイヌ民族」

加藤 忠 先生(北海道ウタリ協会 理事長)

「松浦武四郎はアイヌ民族にとって大恩人である」という力強いコメントが印象的でした。



「松浦武四郎が学んだアイヌ語」

本田 優子 先生(札幌大学 教授)

武四郎が書き記したアイヌ語から、アイヌ語の発音を的確に聞き取っている武四郎の姿を紹介していただきました。

「松浦武四郎の近世蝦夷人物誌」

佐藤 貞夫 先生(松浦武四郎研究者)

武四郎がアイヌの人びとの姿をありのままに伝えようと著した「近世蝦夷人物誌」から、武四郎の人間性をわかりやすくお話いただきました。



パネルディスカッション



コーディネーター 佐々木 利和 先生

3人の先生方による発表の後、佐々木先生を交えてパネルディスカッションがおこなわれました。

参加されたみなさんには、新たな武四郎の魅力を感じていただけたのではないのでしょうか。

「北の先駆け 松浦武四郎」(桔梗会)

シンポジウムのフィナーレは、武四郎の生涯をテーマにした歌「北の先駆け 松浦武四郎」に合わせた踊りを、桔梗会のみなさんに披露していただきました。



展示コーナー

会場では、実行委員や松浦武四郎記念館友の会のみなさんによって、アイヌ文化を紹介するパネルの展示や、アイヌ民族楽器「ムックリ」・「トンコリ」の演奏体験、アイヌ民族衣装の試着、シケレベ(キハダの実)で作ったお茶の試飲、アイヌ文化を紹介するビデオの放映、松浦武四郎関連書籍やグッズの販売といった、さまざまなコーナーが設けられ、お話を聞いていただくだけでなく、見て、触れるかたちでも、アイヌの人びとの歴史や文化を紹介しました。

武四郎の足跡を訪ねてin北海道

平成20年10月15日(水)～18日(土) 3泊4日 35名参加

松浦武四郎は幕末に6度にわたり北海道を調査し、アイヌ民族と深く交流した人物です。

記念事業では、6回目の調査から150年を迎えることにちなんで、武四郎が150年前に探検した6回目の調査ルートの中から北海道東部を訪ね、武四郎の足跡を現地で確かめるとともに、阿寒湖や屈斜路湖でアイヌ民族のみなさんと交流しました。

参加されたみなさんは、6回目の調査の記録をもとに、武四郎がどのようなところを歩き、何を記録したか、さらにアイヌの人びとどのような交流をもったかなどを、実際に現地を訪れることで、肌で感じていただき、武四郎をより身近に感じていただきました。

1日目



◀ 釧路市中心部にある幣舞公園で松浦武四郎の銅像を見学しました。



阿寒湖アイヌコタンで「たいまつ行列」、▶
「イオマンテの火まつり」に参加しました。

2日目



◀ 弟子屈町役場を表敬訪問し、徳永哲雄町長と小林俊夫教育長の歓迎を受けました。徳永町長からは、「武四郎を縁に松阪市と弟子屈町の交流を今後も深めていきましょう。」と、温かいお言葉をかけていただきました。

てしかが郷土史研究会の細川音治会▶
長のガイドにより摩周湖、屈斜路湖での
武四郎の足跡をたどりました。



◀ 屈斜路コタンにあるアイヌ民族の住居「チセ」で、弟子屈アイヌ文化伝承保存会のみなさんと交流会をおこないました。

3日目



◀ 屈斜路湖を源流とし、太平洋へと注ぐ釧路川を、舟で下りながら調査した武四郎にちなんで、ボートに乗って釧路川を下りました。



▲ 摩周湖で弟子屈町のみなさんを交えて記念撮影をしました。

4日目



▲ 斜里町ウトロ漁港にある武四郎の歌碑を見学



◀ 羅臼町のマッカウス洞窟前に建つ武四郎の歌碑を見学

武四郎の足跡を訪ねてin大台ヶ原

平成20年10月29日(水) 41名参加

明治18年(1885)、68歳の武四郎は、妖怪が住む山と恐れられた大台ヶ原(三重と奈良の県境)を終焉の地と定め、70歳になる明治20年にかけて3度にわたり大台ヶ原に登りました。そして地元の人びとの協力を得て、登山道を整備するなど、誰もが安心して登ることができるよう努めています。

そのことにちなんで、記念事業の実行委員であり、松阪で武四郎の研究を行っている佐藤貞夫先生に詳しい説明をしていただきながら大台ヶ原を訪ねる、「武四郎の足跡を訪ねてin大台ヶ原」を企画しました。

参加されたみなさんは、武四郎が建てた石標などを見て歩き、当時の武四郎の姿に思いをはせました。

佐藤先生に詳しく▶
解説をしていただき
ました。



▲ 日出ヶ岳山頂(標高1,695m)では、熊野灘や大峰山系が一望できました。
頂上には武四郎が地元の人びとと協力して建てた石標があります。



▲ 立ち枯れしたトウヒの木と笹原が広がる正木ヶ原は、まるで別世界のようにでした。



◀ 妖快を封じ込めた伝説が残る「牛石」がある広い笹原が「牛石ヶ原」です。
かつて池があった場所には、武四郎が建てた石標があります。



◀ 大台ヶ原の西大台地域にたたずむ松浦武四郎の分骨碑(追悼碑)
現在は自然保護のため、環境省により立ち入りが厳しく規制されており、今回は分骨碑まで行くことができませんでした。



▲ 平成20年8月1日から2日にかけて、武四郎の地元にある三雲中学校の生徒のみなさんも大台ヶ原に登り、70歳で大台ヶ原に登った武四郎のすごさを実感しました。

伊勢街道ウォーク

平成20年11月9日(日) 参加者518名

松浦武四郎は若い頃から全国各地を旅し、晩年には大台ヶ原に登山するなど、71歳の生涯はまさに旅そのものであったと言えます。1日に60km歩いたとも言われる武四郎が、旅を志すようになったきっかけは、小さい頃、伊勢神宮を目指した「おかげ参り」の旅人に影響を受けたことが大きかったと考えられます。

そこで、多くの旅人が行き交った伊勢街道をみなさんに歩いていただくことで江戸時代の旅を感じていただこうと、近鉄ハイキングの協力により街道ウォークを実施しました。

参加されたみなさんは、近鉄伊勢中川駅～松ヶ崎駅までの約11kmを、江戸時代の旅と同じように伊勢街道を歩きながら、松浦武四郎記念館をはじめ、武四郎が読み書きを習った真覚寺、市指定史跡「松浦武四郎誕生地」(武四郎の生家)など、武四郎ゆかりの地や、格子戸の町並みが美しい市場庄地区を散策していただきました。



◀雲出川の堤防を歩いて武四郎ゆかりの地を目指す参加者のみなさん。

松阪市の史跡に指定されている「松浦武四郎誕生地」では、普段は見ることができない敷地や建物の一部も特別に公開して、松浦武四郎記念館友の会のみなさんに解説をしていただきました。



◀松浦武四郎記念館ではお茶のおもてなしがあり、実行委員だけでなく、地元の小野江地区のみなさんにもお手伝いいただきました。

館内では「武四郎を読む」サークルのみなさんに、展示資料を解説していただきました。



街道ウォークに合わせた企画展示



三重県立博物館 移動展示

「いにしへの風景～三重の旅といとなみ～」(11月1日～31日まで)

松浦武四郎を旅へといざなったのは、子どもの頃に見た「おかげ参り」の旅人たちと、日本各地の名所を紹介した「名所図会」に描かれた風景であったと考えられます。

三重県立博物館の所蔵資料の中から、三重県を中心に江戸時代から昭和に至る旅に関する絵画や文献資料を展示することで、街道文化や、旅を支えた人びとの生活の様子を紹介しました。

伊勢新聞創刊130年記念 パネル展示

「伊勢新聞の歴史と松浦武四郎」(11月1日～31日まで)

伊勢新聞の創始者である松本宗一は松浦武四郎と親交がありました。

武四郎が晩年に大台ヶ原登山を行った際には、津の松本を訪ねており、その様子が当時の伊勢新聞で報じられています。

伊勢新聞の歴史とともに、武四郎のことが掲載された新聞記事もあわせて展示しました。



松浦武四郎を紹介する大型看板をリニューアル

松浦武四郎を広く全国に発信していく話題づくりとして、20年前に制作された武四郎を紹介する看板をリニューアルすることになり、看板のデザインを募集しました。

平成20年9月に記者発表を行い、全国に呼びかけたところ、北海道から福岡県までのさまざまな地域の方々から、44点にのぼるデザインをご応募いただきました。

その結果、北海道札幌市在住の田中宏美さんの作品を最優秀作品として新しい看板のデザインとすることを決定し、平成21年2月4日に新しい武四郎の看板が完成しました。



応募作品の審査は、平成20年12月13日(土)に松浦武四郎記念館で行われ、ご子孫である東京の松浦さんや、武四郎の実家にあたる松阪の松浦さん、美術の専門家として大杉石美先生や、松阪市の小林教育長、松浦武四郎記念館の高瀬館長と、実行委員会から三好実行委員長、山本・中村両副委員長を交えて、44点の力作の審査にあたりました。

最優秀作品と審査員のコメント



田中さんの作品とデザインの説明

松浦武四郎さんは、アイヌ民族と深い関わりがあった事でも有名です。北海道での活躍は、まさにアイヌ民族と松浦武四郎さんとの心の交流があったからこそ、成し遂げる事ができたのだと思います。雄大な北の大地を眺める彼の姿の背景には、北海道の自然のみならず、アイヌ民族の文化も伝えたいという想いと共に、調査を続けた武四郎さんの雄姿を表現しました。

三好実行委員長

田中さんの作品は、デザインとして非常に洗練されており、武四郎とアイヌ民族との結びつきがアイヌ文様により象徴的に表現されていると感じた。

大杉 石美 さん(美術専門家)

最優秀作品とした田中さんの作品は、看板デザインとしての訴え方がよかったと感じた。作品中のアイヌ文様からは北海道の形をイメージでき、非常に訴える力があつた。

これまでの看板は、国道23号雲出大橋南側の津方面車線沿い(松阪市小野江町585-2番地)に位置し、20年前の平成元年に、武四郎の没後100年を記念して三雲町が制作しました。当時はまだ松浦武四郎記念館の建設前であり、武四郎の生家を案内するものでした。



新しい看板は、国道23号を通る車から見て、一瞬で武四郎の看板だとわかり、多くの人びとの目にとまるような力強いデザインでもあるため、インパクトや宣伝力があり、看板としての効果が期待されます。

松浦武四郎研究成果速報会「武四郎研究の最前線」

平成21年2月11日(水)祝日 松阪市産業振興センター 参加者160人

平成20年2月にスタートした松浦武四郎生誕190年等記念事業ですが、1年をかけておこなってきた記念事業の最後を飾ったのは、武四郎に関係する資料の研究成果速報会でした。

松浦武四郎記念館では北海道開拓記念館などと連携して、平成19年度から平成22年度までの4年計画で、日本学術振興会の科学研究費による助成を受けて武四郎の研究に取り組んでいます。

現在、全国各地に眠る武四郎の資料を続々と調査しており、まさに「武四郎研究の最前線」ともいえる研究成果を、いち早くみなさまにお知らせすることができました。

記念事業 この1年を振りかえって

松浦武四郎生誕190年等記念事業実行委員会

1年をかけておこなってきた記念事業の模様を、実行委員を代表して坂井文委員、中村文恵副実行委員長が紹介しました。



研究成果発表



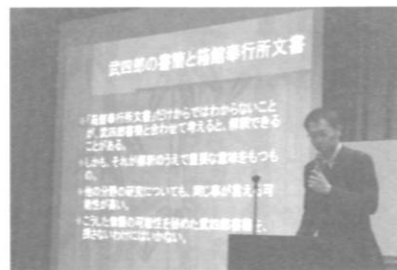
研究の趣旨を語るののは、研究プロジェクトのリーダーである北海道開拓記念館の笹木 義友 事業部長です。

司会を務めるとともに調査の経過を紹介する松浦武四郎記念館の山本 命 学芸員



「武四郎が記した交友人名録」と題して研究発表のトップバッターを務めたのは、藤女子大学の講師 松本 あづさ 先生です。

「武四郎の書簡と箱館奉行所文書」と題した発表を行った北海道開拓記念館の東 俊佑 学芸員、「武四郎の資料は無限の可能性を秘めている」という言葉が印象的でした。



「武四郎が水戸藩へもたらした諸情報」と題した発表を行ったのは、松浦武四郎の研究では若手ナンバーワンと呼ばれるのが高い、北海道開拓記念館の三浦 泰之 学芸員です。



「書簡に見る武四郎の交友関係」と題して、武四郎に宛てられた様々な人物からの手紙を紹介していただいた国文学研究資料館准教授の山田 哲好先生。



研究発表の最後に、武四郎研究の課題とこれからの展望を、国立民族学博物館教授の佐々木 利和 先生にまとめていただきました。

記念事業 連続講座を開催

記念事業では、さまざまな顔をもつ松浦武四郎の魅力を、より多くの方々に知っていただくため、松浦武四郎記念館の学芸員が講師をつとめ、全9回にわたり連続講座を開催しました。

講座には毎回たくさんの方にお越しいただき、会場はみなさんの熱気に包まれていました。



- 第1回講座「松浦武四郎とその資料」 平成20年 4月13日(日) 参加者70名
武四郎の生涯の事績を大まかにお話したほか、記念館が所蔵する資料の概要を紹介しました。
- 第2回講座「武四郎が蝦夷地へ渡るまで 前編」 平成20年 5月11日(日) 参加者65名
武四郎の少年時代と、16歳で家を出てから全国各地をめくり歩いた足跡を紹介しました。
- 第3回講座「武四郎が蝦夷地へ渡るまで 後編」 平成20年 6月 8日(日) 参加者47名
蝦夷地調査を決意し、28歳で蝦夷地へ渡るまでの足跡とエピソードを紹介しました。
- 第4回講座「蝦夷地を探る」 平成20年 7月13日(日) 参加者61名
幕末に6度にわたり行った蝦夷地調査の様子と、その成果や意義を紹介しました。
- 第5回講座「アイヌ民族の良き理解者として」 平成20年 8月10日(日) 参加者60名
蝦夷地調査でアイヌの人びとと深く交流し、アイヌ文化の紹介に努めた姿を紹介しました。
- 第6回講座「幕末の志士とともに」 平成20年 9月14日(日) 参加者65名
幕末という激動の時代を生き、自らも志士として活躍した姿を紹介しました。
- 第7回講座「維新に生きる」 平成20年12月14日(日) 参加者45名
西郷隆盛、大久保利通、木戸孝允とも交流し、明治政府へ登用された武四郎の活動を紹介しました。
- 第8回講座「趣味に生きる」 平成21年 1月11日(日) 参加者37名
政府を辞職後に再び旅に出て、古物を集めることや、天神信仰を行う姿を紹介しました。
- 第9回講座「老いてなお衰えず」 平成21年 2月 8日(日) 参加者77名
68歳からの大台ヶ原登山など、武四郎が生涯を通じて旅に生きた姿を紹介しました。

松阪歴史探訪 シリーズ「武四郎が行く」

松阪市行政情報番組「iウェーブ まつさか」においても、松浦武四郎の生涯を9回にわたって紹介する番組として、松阪歴史探訪 シリーズ「武四郎が行く」を制作し、平成20年7月から平成21年3月にかけて放送されました。



リポーターは松阪出身の山上和美さん、案内役は松浦武四郎記念館の学芸員が務めました。

「松浦武四郎関係資料」1503点が重要文化財に指定

松浦武四郎記念館で保管されている資料には、幕末から明治維新を生きた武四郎が残した著述や出版物、多彩な交友関係を示す手紙や、趣味で収集した美術工芸品など、様々な資料があります。

記念事業がおこなわれる中で、平成20年(2008)7月に、武四郎の実家にあたる松阪の松浦家と、武四郎の直系にあたる東京の松浦家に伝来し、長らく保存されてきた資料群(現在は松浦武四郎記念館に収蔵)が、幕末から明治維新にかけての政治や文化を知る上で重要な資料であることが認められ、1503点にのぼる資料が歴史資料として、国の重要文化財に指定されました。



1503点にのぼる資料は、著述稿本類(511点)、地図・絵図類(59点)、書籍類(287点)、文書・記録類(372点)、書画・器物類(274点)に分類されています。

松浦武四郎記念館における展示



松浦武四郎記念館では、約2ヶ月ごとに展示替えを行い、さまざまなテーマで武四郎の姿を紹介しました。



展示案内
リーフレット

「武四郎の生涯」

平成20年 2月 5日～ 4月27日

入館者 3697人

武四郎の生涯を、少年時代の手紙から、蝦夷地調査、晩年の活動と、さまざまな資料から紹介しました。

「武四郎と尊王攘夷思想」

平成20年 4月29日～ 7月 6日

入館者 1253人

北方探検家として知られる武四郎が、尊王攘夷の志士たちや幕臣など、幕末に活躍した多くの人物と交流する姿や、出版活動をおこなうなど、志士たちに影響を与えた姿を紹介しました。

「アイヌ民族へのまなざし」

平成20年 7月 8日～ 8月31日

入館者 1011人

国会で、アイヌ民族を先住民族として認めるよう政府に求める決議があったことにあわせて、幕末に6度に及ぶ蝦夷地調査の中で、アイヌ民族と深く交流した武四郎の姿を紹介しました。

「松浦武四郎 八面六臂の大活躍」

平成20年 9月 2日～10月19日

入館者 782人

松浦武四郎関係資料の重要文化財指定を記念し、探検家、作家、学者、志士、篆刻家、画家、歌人、収集家など、さまざまな分野で活躍し、多芸多才ぶりを発揮した武四郎の姿を紹介しました。

「武四郎と文人たち」

平成20年10月21日～12月14日

入館者 1715人

武四郎は詩歌を詠み、書画をよくするなど文人としても活躍し、また、多くの文人たちとも交流しましたが、和歌を中心に文人としての武四郎の姿と、武四郎と交友のあった文人たちの作品を紹介しました。

「収集家 武四郎」

平成20年12月16日～平成21年2月8日

入館者 407人

晩年に古物の収集をおこない、収集家としても際立った活躍を見せるとともに、同好の人びとと展覧会を開くなどした武四郎の姿を紹介しました。

「北海道人 松浦武四郎」

平成21年 2月10日～ 4月 5日

第14回「武四郎まつり」の開催にあわせて、武四郎が家を出る時の手紙や、蝦夷地調査の記録など、初公開の資料から「北海道人」という雅号をもっていた武四郎の生涯を紹介しました。

松浦武四郎生誕190年等記念事業実行委員会

実行委員会では武四郎の魅力をできるだけ多くの方々に知っていただくために、平成19年5月から平成21年3月まで、ほぼ毎月会議を開いて意見を出し合い、さまざまな企画を考えました。



記念事業を終えて最後にひとこと

※名前の後の()内は委員就任時の所属する団体などです。

実行委員長 三好 孝 (松阪木綿振興会)

みなさんとともに歩めたことは、生涯のなかでとても有意義なことでした。
松浦武四郎記念館を建てることに力を尽くされた方々には心から敬意を表します。

副実行委員長 山本 坦 (松阪ガイドボランティアの会)

人生のいい肥やしになりました、記念事業の火をどうか消さないように。

中村 文恵 (格子戸の会)

今後も街道ウォークを企画し、200年に向けてつなげていきたい。

実行委員 庄司 佳伸 (伊勢の國・松坂十楽)

記念事業を通して自分の人間性を磨くこともできました。

佐波 早苗 (松浦武四郎記念館友の会)

武四郎の生家が整備される頃には上手なガイドができるようになりたい。

米山 哲司 (NPO法人 Mブリッジ)

わずかな参画の中でもお手伝いでき、いい経験をさせていただきました。

米本 一美 (「武四郎を読む」サークル)

ここで切れてしまうのはもったいない、10年先といわず5年で何かを。

門 暉代司(本居宣長記念館)

たくさんの出会いとともに、武四郎さんを身近に感じられたのが大きな収穫でした。

伊藤 義徳 (松阪市都市計画マスタープラン策定委員)

平成17年1月に合併して、初めて市内に「北海道の名付け親」がいることを知りました。もっと武四郎の輪を広げていけたら。

佐藤 貞夫 (松浦武四郎記念館運営審議委員)

小・中学校で武四郎を知る機会が増えますように。大台ヶ原バスツアーも定番行事にしてみても。

安西 洋子 (松阪もめん手織伝承グループ「ゆうづる会」)

これからも武四郎を身近に感じていきたいと思います。

坂井 文 (まちの駅「寸庵」)

これからは武四郎のことを、胸を張ってお話することができます。

吉田 正博 (松阪まちなか街づくりネットワーク実行委員)

勉強になりました、武四郎はすごい人だと改めて感じています。

大井 兵衛 (松阪市自治会連合会 三雲地区自治会 小野江支部) ※平成20年3月まで

中西 克利 (松阪市自治会連合会 三雲地区自治会 小野江支部) ※平成20年4月から

地元での取り組みは大事にしていかなければいけないと感じました。

飯田 秀 (松浦武四郎記念館友の会)

友の会の活動を通じて、記念事業の火を消さないようにしたい。

斎藤 清治 (三雲商工会) ※平成19年12月まで

高木 宏和 (三雲商工会) ※平成20年1月から3月まで (商工会合併)

清水 哲夫 (嬉野商工会) ※平成20年3月まで (商工会合併)

小野 和男 (松阪北部商工会) ※平成20年4月から5月まで

松本 浩二 (松阪北部商工会) ※平成20年6月から

武四郎のことを、あまり知らなかったが、これからも武四郎のことを学びたいと思うようになりました。

辻本 憲男 (松阪市立小野江小学校)

オープニングイベントの群読は子どもたちにとって最高の発表の場でした。

深田 憲一 (松阪市立三雲中学校)

今後も三雲中学校の大台ヶ原登山が継続できるようご支援をお願いします。

事務局 松浦武四郎記念館

みなさんには無理を言って委員を引き受けていただきましたが、お願いして本当によかったと思います。
10年先の生誕200年もどうぞよろしくお願いいたします。

松浦武四郎のホームページを新しくしました

松浦武四郎を広く全国に発信していくため、これまで松阪市の公式ホームページにあった武四郎に関するページを、デザインから一新し、情報の充実に努めました。

新しいホームページでは、これまで紹介しきれなかった武四郎の生涯を、さらにわかりやすく、詳しく紹介していくことで、武四郎の魅力や業績を多くの方々に知っていただくことができます。

これにより、松浦武四郎記念館にお越しいただくことができない遠方の方にも、武四郎のことを知っていただけるとともに、情報の更新によって内容の充実ははかり、松浦武四郎記念館へお越しいただける方を増やしていきたいと思っております。



トップページには松浦武四郎の漫画イラストの場面を採用しています。



松浦武四郎生誕190年等記念事業についても紹介しています。



松浦武四郎の生涯を、豊富な資料写真とともに詳しく、わかりやすく紹介しています。



松浦武四郎に関する多彩なオリジナルグッズを紹介、販売しています。

ホームページをご覧くださいには

松阪市ホームページのトップページ下にある「松浦武四郎」をクリックするとご覧いただけます。

また、以下のアドレスが松浦武四郎のホームページアドレスは次の通りです。

http://www.city.matsusaka.mie.jp/bunka/shisetsu/take_mu/index.html

※システムの管理上、止むを得ずアドレスを変更する場合がありますので、ご了承願います。

発行 平成21年3月

企画・編集 松浦武四郎生誕190年等記念事業実行委員会

〒515-2109 三重県松阪市小野江町383 松浦武四郎記念館内

TEL.0598-56-6847 FAX.0598-56-7328